

エッセイ

「第10回 世界華語學校圖書館論壇」参加報告

岡田 大輔

(相愛大学 講師)

Report of “the 10th World Chinese School Library Forum”

By Daisuke OKADA

(Lecturer of Soai University)

1 世界華語學校圖書館論壇

2023年の7月20日から25日、「世界華語學校圖書館論壇」で発表するためマカオを訪れた。「學校圖書館」は日本語と全く同じ意味で、小中高校等にある図書館を表し、大学図書館は含まない。「論壇」はフォーラムである。そして、「華語」というのは中国語のことである。これは、中国語が使われる場であることを示すとともに、中国(大陸地区)・台湾・香港・マカオの総称として、政治的な立場を表明することを避ける意味もあるのだろう。

毎回概ね30件程度の発表が行われる。発表のレベルはIASL(国際学校図書館協会)の大会と同程度に思われ、低くはない。また、毎回、海外からの講演者による基調講演が通訳付きでなされる。これは海外コンプレックスと捉える向きもあるだろうが、意義のあることだと考えられ、日本の学会・研究会でももっと行われるべきだろう。

2 道中

世界華語學校圖書館論壇は、近年は2年おきに台湾→香港→マカオ→中国(大陸地区)の順に持ち回りで開催されている。私がこの大会に初めて参加したのは前のマカオでの大会で、もう8年も前のことになる。以降欠かさず参加してきた。

マカオへは大阪からの直行便もあるが、この航空券は高い。しかし香港空港を経由すると5万円程度で往復できる。ただそうすると、1回香港に入国して、“出境”して、マカオに“入境”と、3回パスポートを見せることになる。この時期はコロナが落ち着いて、一般的に外国に行けるようになってまだ3ヶ月ほどだった。香港やマカオはほぼ元通りになっているとのことであったが、入境出境に時間がどれだけかかるか全く読めなかった。結果として、入境出境で待たされることはほとんどなかった。帰りも極めてスムーズに進み、香港空港には6時間も前に着いたが仕方がない。一番待ったのは関空での搭乗手続きだった。

中国は8年で様変わりする。香港からマカオに行くには高速船しかなかったが、今は50kmに及ぶ橋が完成し、頻繁にバスが運行されるようになっている。マカオの中には電車もできた。電車好きの私は当然乗る。が、本題と関係ないので省略する。

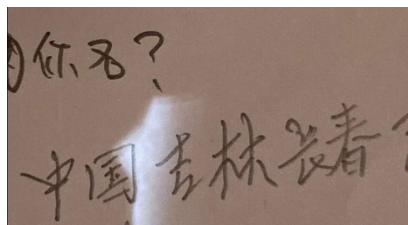
3 中国語に関して

私は中国語を勉強したことはない。ただ、香港やマカオは台湾と同様に、中国大陆で使われている簡体字という略された文字ではなく、繁体字と呼ばれる日本の旧字体に近い文字が使われている。そのため、読むほうは慣れてくるとなんとなく分かってくる。第2外国語として2年間学んだ韓国語よりよっぽど分かる上、残念なことに英語より分かることは多い。

マカオのホテルは高い。8年前はマカオ大学の「研究生宿舍」に安く泊めてもらえたが、今回主催者から紹介されたホテルは、日本円で1泊1室2万円にもなる。相部屋を希望した。

同室になったのは(同じく参加者の)長春から来た小学校の先生だった。英語はできない方で、私も英語は苦手であるので、できる方と同室になるよりよっぽど気楽である。今の時代はスマホで翻訳サイトも使えるのだが、筆談する(図1)のが楽である。ただ、この方、食事に行くときに私に対して

図1 実際の筆談の一部(“你名?”が私が最初に書いた筆談)



「ミシ、ミシ」と言う。ただ、ミシとは飯のことで、中国のテレビドラマで、日中戦争期の日本軍兵士が中国人の家に押し入るときに言うセリフである。

4 マカオ大学の図書館の見学

会場はマカオ大学の大学図書館(図2)の中にあるホールで、8年前と同じで懐かしく感じる。

図2 会場の大学図書館



最初のプログラムとして、大学図書館の見学があった。香港の方々とまわることになり、香港の方

は英語が話せる。「漢字読めるんですね、すごいですね」「ふつうの外国人は話せても読めないのに」のような私にとっては何度も経験した話にはなるが、いろいろな参加者に自分の存在を知ってもらうことにはつながる。この大学図書館は8年前に見学したので、今回はパスしようとも思ったが、参加して正解だった。

館内で面白かったのは“朗讀亭”(図3)で、漢詩などを朗読できる。「画面は簡体字だから、中国の

図3 朗讀亭



ものですよ」と参加者が気づかせてくれる。帰国後に調べたところによると、中国のバラエティ番組「朗読者」によって朗読ブームが起き、「慌ただしい日々の中で、しばし立ち止まって、名文や心の奥底にある思いや夢を心を込めて読むことで、言葉の持つ力を感じられる」1) とのことである。

5 発表

大会のテーマは「読書推進とその展開」であり、サブテーマとして「学校における親子読書の推進」「読書推進における IT の活用」「読者グループの育成」「学校における情報リテラシーの育成と推進」「学校図書館と児童生徒のリテラシー」「図書館と読書推進カリキュラムの開発」が挙げられていた。前回は「デジタル時代の図書館の動向と知識の交流」、その前は「リテラシー教育での学校図書館の発展」であったので、中国語圏の学校図書館が読書だけに力を入れているわけではない。

5.1 全体会

午後からは開会式などの後、まず国際学校図書館協会 (IASL) 会長のケーシー・ギャリソン博士による「持続可能性のための読書推進」の講演があった。今回はオンラインでの講演で、しかも収録であった。ただ、字幕がつけられており、むしろこのほうが参加者に伝わるととらえることもできる。次に、おそらく第10回大会であることを記念して、台湾の陳昭珍教授からこの論壇の設立経緯や歴

史についての講演があり、次いでマカオ協会の王國強理事長から、「コロナ後の再生：マカオの学校図書館の読書推進活動」の講演がなされた。

5.2 分科会

この後は3部屋に分かれての分科会で、表1に発表タイトルをまとめた。

表1 発表タイトル (訳は岡田による)

李 苗	中学校の PBL プログラムにおける情報リテラシー教育の検討
徐惠卿	小中学校図書館における親子読書促進の方略に関する予備的研究
舒 睿	図書館における国語での段階的な読書を促進する方法の研究
謝呈媛	教科のコアコンピテンシーに注目した小中等学校図書館の読書カリキュラムの実践的研究
黃鳳平	国語の読書推進における情報技術の応用と検討
劉 娟	図書館と読書推進カリキュラムの開発
張向宇	義務教育段階での図書館カリキュラム設計と読書推進の実践事例の分析と考察
倫雅文	学校図書館におけるカリキュラムの可能性概論
王曉龍	中学校の読書活動における情報技術と映像メディアの活用
石雅翠 黃曉彤	図書館での授業計画：児童書を用いて子どもたちと戦争と平和について考える
李嘉敏	香港での読書推進における情報技術の活用
凌秀慧	読書推進とその展開 – 図書館に生命力を注入する
鍾絮蘭	読書推進への保護者の参加
黃綺璇	国際学校図書館協会と香港学校図書館主任協会の 2023 年度優秀功績賞
岡田大輔	中国語文献における日本の学校図書館 (2)
葉芷均 陳昭珍	高校の国語の授業へ徹底討論教育を導入するアクションリサーチ
吳舜輝	国語読解力診断 (DACC) の結果から、現在の台湾の高校教育が生徒の読解力の育成に与える影響を考察する試み
吳舜輝	学校図書館管理システムを読書促進に活用する
曾品方 葉宜娟	台湾の図書教師による読書推進療法サービスに関する研究：「マインドフルリーディング」プロジェクトを例にして
曾品方 李婉儒 王蓓菁	SDGs を読書教育に取り入れたカリキュラムの開発
陳有蓁 陳昭珍	デジタル能力と家庭のデジタル環境から見た我が国の中学生の遠隔学習の受容
謝淑熙	古典読解教育の新たなチャンス
吳淑貞 陳昭珍	教師の読書コミュニティの実践と影響に関する研究
洪宇亭 陳昭珍	紙の読書とオーディオブックの好みによる生徒の読解力の差

私の発表の他、中国から 7 件・香港から 7 件・台湾から 9 件の発表があった。分科会は初日の午後と 2 日目の午前しかなく、慌ただしい。大学の先生や大学院生の発表もあるが、現場の学校図書館員の実践報告が多い。

あらためて、私は発表の内容を聞いて理解することはできない。他の方の発表のときはスライドをただ読むことになる。激しい質疑応答が起きることもあるのだが、その論点を知ることはできない。

6 自分の発表

6.1 発表の内容

私の発表は、中国語の文献で日本の学校図書館がどのように取り上げられているかを調査したもので、まとめると、

近年、日本の学校図書館を紹介する中国語の学術文献がいくつも出されている。ただ、文献によっては「日本の 12 クラス以上ある学校では、司書教諭がいないといけなと定められ、しかもこの法律はほぼ守られている」と(のみ)書かれていたりする。この記述は間違っていないが、「司書教諭は担任の先生などと兼任で、学校図書館の仕事をする時間はあまりなく、書類上いるだけになっていることも多い」も現実であり、日本の学校図書館が正確に紹介されているとはいえない。

こうなるのは、日本の研究者が自国のことを外国語であまり発信しないことが一番の要因だろう。外国語で情報を発信し、議論することは、中国語圏のみならず世界中の学校図書館の発展につながる。私も外国語で発表していくので、皆さんも外国語での発表してほしい。

といった内容となる。

ただ、同じようなことはおそらく日本でも世界でも起きている。私も外国でちょっと見てきただけで「外国ではこうなっている」と授業で言っているところはある。外国語での発信も十分にはできていない。

前回の香港大会では内々に発表を依頼されたが、十分な準備期間が取れなかった。そのため、中国語圏の方に興味を持ってもらえ、日本の状況を幅広く伝えられ、文献調査で済むものとしてこのテーマとした。ただ、中国語の文献を集め始めると気になるところはたくさんあり、定められた予稿集の分量には到底収まらず、ごく基本的な部分しか発表できなかった。今回はその続きとして、大会のテーマに合わせて「読書推進と情報リテラシー」に関する内容とした。

6.2 発表の準備

中国大陆地区には「中国学術情報データベース (CNKI)」と呼ばれる、日本の CiNii と同様のデータベースがある。今回は前回に引き続きこのデータベースに掲載されている文献を調査した。そのため、台湾や香港の文献は調査できていない。ただそれでも、修士論文 3 件・新聞記事 3 件を含む 67 件の文献が収集された。調査したと言っても、ただ翻訳サイトも使って頑張って読むだけで、量的な

分析やコンピューターを使った分析はできていない。

そして、文献を読むことは翻訳サイトも活用すれば何とかできるが、現状では翻訳サイトで正しい中国語を書くことは難しい。ただ、予稿集は中国語で作成することが期待されている。そのため、予稿は仮のものを翻訳サイトを用いて中国語で作成し、筑波大学の図書館情報学を専門とする中国人留学生にアルバイトとしてチェックして頂いた。そして、スライドは予稿を元に作成するので大丈夫なはずであるが、念のため学内の中国人留学生に見てもらった。これもわずかながらアルバイト代は払っている。

6.3 当日の発表

ただ、話す方はどうにもならないので、当日の発表は英語で行った。クイズ形式で発表し、聴衆のため、また自分のためにも話すことがなるべく少なくなるよう工夫した(図4)。

図4 発表のスライド(部分)

[Q1] 「各中小學圖書館經常舉辦讀書會、研究會、欣賞會、放映會以及圖書期刊資料展覽會等活動」是否正確? 張彥宏 (2010)。〈我國和部分發達國家中小學圖書館政策簡介〉。《中小學圖書情報世界》，3，63-64+56。 • 是錯誤的 • 《學校圖書館法》規定了進行這些活動，但在實際運作中卻幾乎沒有得到落實	[Q8] 「日本兒童閱讀推廣也存在一個相當大的缺點-過於注重“量”而忽略了“質”」是或不是? 張麒麟，姜霖 (2020)。〈日本兒童閱讀推廣的長效促進機制〉。《圖書館論壇》，40(3)，147-155。 • 是正確的 • 小學生平均閱讀冊數為13.2冊，初中生為4.7冊，高中生為1.6冊(全國學校圖書館協議會，2022)
Q1 「どの学校図書館でも、読書会，研究会，鑑賞会，上映会，本や雑誌の展示などの活動がよく行われている」○か×か? ×	Q8 「日本の子どもの読書推進では“量”を重視し“質”はおろそかになっているという大きな欠点がある」○か×か? ○

私の発表は、分科会の一番最後、私の発表しかない時間に準備されていた。今回、私にしては珍しく、読み原稿も準備し、何回か練習もした。ただ、20分の発表時間が直前に15分になると、私の英語力ではどうにもならない。いくらかの問題を飛ばして、私の発表は終了した(図5)。

この日の午後は、皆で図書館とは関係ない観光に行った。そこでまた質問も含めていろいろ話しかけていただける。ただ、どうも「日本側の発信不足であること」「海外との交流が大切であること」は十分に伝わらなかったようである。確かに、その部分が伝わらなければ、ただ中国の研究は不十分である、と中国の悪口を言っている感じにはなる。

図5 筆者の発表の様子



7 懇親会

初日は結構な宴会場で懇親会が、2日目はレストランで懇親会が催された。食事はおいしく、とても良いのだが、中国文化を感じられる点が2つある。

1つ目は、酒が出ないことである。今回に限らず出ない。白酒を飲まされたりすると思いがちだが真逆である。ホテルで同室の先生も「この部屋で酒を飲んでほしくない」とおっしゃる。私はホテルの廊下の椅子でビールを飲むことになる。

2つ目は、懇親会でカラオケ大会をすることである。これも毎回ある。マカオ協会の前理事長はまるまる2曲聞かせてくれるし、地域ごとにみんなで舞台に乗って、スマホのライトを振って歌う(図6)。

図6 懇親会でのカラオケ大会



参加費には2回分の懇親会費、2回分の昼食代、ホテルから会場までの送迎、学校図書館見学、予稿集などが含まれていて、約18,000円である。ホテル代は別である。アメリカでの学会に比べるとずっと安い、日本よりも高くなっている。

8 学校図書館の見学

最終日は学校図書館の見学として、皆で「鄭観應公立學校」を訪れた。学校図書館は中庭に面した1階にあり、外から気軽に出入りできる(図7)のはおもしろい。

図7 外から出入りできる



9 終わりに

次回の世界華語學校圖書館論壇は、浙江省の杭州云谷学校で開催される。2024年12月、または2025年7月の開催が予定されている。

参考文献

- 1) 「朗讀亭」『百度百科』 <<https://baike.baidu.com/item/%E6%9C%97%E8%AF%BB%E4%BA%AD/20467804>>. [引用日: 2023-09-30]